



# International Programs in Language and Culture 2015



北海学園大学人文学部



## Brock University's partnership with Hokkai-Gakuen University



**Kim Meade**  
Vice-Provost  
and Associate Vice-  
President,  
Student Services

In the wake of our 50th anniversary celebrations here at Brock University year, it is a time for us to reflect on important partnerships we have developed over the years. Our relationship with Hokkai-Gakuen University is one partnership that we certainly value at Brock University.

Just as Brock has grown over the years, so, too, has our partnership with Hokkai-Gakuen University. For more than ten years we have had the pleasure of welcoming students from the Faculty of Humanities to our university. Since 2014 the program has expanded so we also have the pleasure of working with students from the Faculty of Business. These new groups have allowed us to diversify the types of academic activities we can offer, including trips to local wineries, the Niagara Hilton Hotel and the Royal Bank of Canada. At the same time, we see your students actively participating in many of our annual university and local activities such as our Grape Stomp and the Ice Dogs hockey games.

The enthusiasm and energy the Hokkai-Gakuen students bring to our campus every year is wonderful to see. During their short stay, they form new friendships with students from around the world and develop lasting relationships with their homestay families. We are all enriched by their presence in our classes and on our campus.

We hope that as Brock moves into the next 50 years of its founding, our long-standing relationship with Hokkai-Gakuen University will continue to grow. I also hope that I have the opportunity to visit your campus once again in the near future.

## Strengthening the HGU-ULeth Partnership



**Paul Pan**  
Acting Executive  
Director  
University of Lethbridge  
International Office

On behalf of the senior administration and myself, I would like to invite you to join our University of Lethbridge International family. The University of Lethbridge is consistently ranked as one of the top small universities in Canada and has a long tradition of providing quality education and helping students achieve their personal and educational goals.

We welcome you into our international family with representation from over 65 countries. You will work with others to gain first-hand information about and insight into Canadian university life. As a member of our International family, you will find plenty of opportunities to connect with other students, both Canadian and international, and have access to all student services.

Make the University of Lethbridge your destination university. See you soon!

# 人文学部カリキュラムにおける語学文化研修

## 英米文化特別演習(旧、国際文化演習):9月

英米文化特別演習は、9月初旬から約3週間、本学の協定校であるカナダ、レスブリッジ大学(アルバータ州)またはブロック大学(オンタリオ州)のいずれかにおいて、現地の大学の授業を履修するために必要な英語運用能力を養成するプログラム(IELP または EAP)の履修と現地での様々なアクティビティを通じた文化体験による研修です。2014年度からは学生の希望と英語力により、2つの大学のいずれかを選択して参加できるようになりました。参加学生にとってこの研修は、現地での様々な経験や出会いを通じてその後の新たな目標を見つけ、より長期の留学や進学を目指すなど、次のステップに向かうための重要な足掛かりとなっているようです。是非、多くの学生に参加してもらいたい研修です。

## 国際文化特別演習:9月~12月

国際文化特別演習は、英米文化特別演習と同じ時期に上記の協定校2校のいずれかにおいて、現地での1学期(約14週間)を他の国からの留学生と一緒にIntensive English Language Program (IELP, ブロック大学)、English for Academic Purpose Program (EAP, レスブリッジ大学)で現地大学レベルでの学術研究に必要な英語運用能力を養成するための授業を履修します。3週間と期間の短い英米文化特別演習より、さらに大きな成果が期待されます。この科目は2年次より履修可能で、英米文化特別演習の参加有無を問わず参加可能です。また、現地での学修は履修科目と成績に応じて12~20単位が本学卒業単位として認定されます。



結団式



ブロック大学研修



レスブリッジ大学研修

## Contents

挨拶	1	レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介 レスブリッジ大学海外研修事業の概要と EAP 授業	13
人文学部カリキュラムにおける語学文化研修	2	レスブリッジ大学のアクティビティ	14
ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介 ブロック大学海外研修事業の概要	3	参加者エッセー [レスブリッジ大学 / 国際文化特別演習]	15
ブロック大学の ESL 授業 ブロック大学のアクティビティ	4	Interview "Why Lethbridge?"	18
参加者エッセー [ブロック大学 / 英米文化特別演習]	5	研修までの流れ	19
参加者エッセー [ブロック大学 / 国際文化特別演習]	9	海外研修事業の歴史	20
Interview "Why Brock?"	12	Photo Gallery	21

# ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介

## St.Catharines市

カナダ、オンタリオ州南西部に位置するセント・キャサリンズ市 (City of St. Catharines) は、ナイアガラ地域では最も大きな都市です。果樹園やぶどう園、ゴルフコース、史跡などに囲まれ、緑あふれる景観からガーデン・シティ (The Garden City) とも呼ばれています。手入れのゆきとどいた美しい公園と 200 を超える温室があり、カナダの温室産業の基地ともなっています。

トロントからは車で 1 時間、ナイアガラの滝には 20 分弱と近く、ナイアガラ観光に適した都市でもあります。また、トロントとアメリカのバッファローの間という位置でもあり、アメリカからも多くの人々が訪れます。ワイナリーは 45 以上と言われ、カナダ最大のワインの産地としても知られています。



セント・キャサリンズ市



ブロック大学

## ブロック大学とは

ブロック大学は、セント・キャサリンズ市にある 1964 年に設立された総合大学です。大学名は、1812 年の戦争 (War of 1812) の軍功で名高いアイザック・ブロック (Isaac Brock) の名にちなんでいます。中規模ながら充実した学術プログラムが国際的にも評価され、応用健康科学部、経営学部、教育学部、人文学部、数学科学部、社会科学部及び大学院が設置されています。また、留学生向けには充実した英語集中講座があります。

※ブロック大学公式 HP <http://www.brock.ca/>

## ブロック大学海外研修事業の概要

今日は、社会の多文化化にともない、日常語としての英語の普及および実践的な多文化適応力の養成が求められています。ブロック大学と本学とは 2000 年に交流協定を締結し、9 月上旬からの 3 週間、IELP (Intensive English Language Program: 英語集中講座) に学生を派遣しています。2014 年度からは科目名を「英米文化特別演習」と改め、1 年次からの参加が可能となりました。さらに 2015 年度からは 2 年次から参加できる「国際文化特別演習」として、9 月上旬から 12 月中旬までの秋学期、約 3 ヶ月にわたり IELP を履修することを可能としました。両演習とも英語圏の大学での就学に必要な英語運用能力を習得することが主要な目的ですが、ホームステイや様々な文化活動を通じて、カナダの文化・社会についても理解を深められるのも特徴の一つです。研修を通じて得られるもう一つの経験は多文化主義の実体験です。研修期間中、学生たちはフランス語圏のカナダ人、中南米、アジア、中東各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を受けることになります。様々な国の学生と友好を深め、視野を広げる機会になり、積極的な授業参加や発言の場ともなっています。

## ブロック大学の ESL 授業【プレイスメント・授業内容等】

ESL クラス

平日 8:00 ~ 16:00

学生は5つのクラス（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・グラマー）を受講します。

### ●自身のレベルに応じて学習

プレイスメントテストの結果に応じて、レベル0（英語入門クラス）からレベル5（大学入学準備クラス）までの6つの段階に習熟度別にクラス分けされます。

### ●いろいろな国からの学生と共に学習

アジア・中東・中米・南米などから来ている学生たちと共に学びます。

### ●授業は、英語だけを使用

世界中から学生が集まるため、お互いにコミュニケーションを図る際は、英語を使用しなくてはなりません。授業中だけでなく、大学構内では他の言語を使用せず、英語だけをを使うよう勧められています。



ブロック大学のキャンパス



①ブロック大学でのオリエンテーション ②③④ブロック大学の教室で

## ブロック大学のアクティビティ【トロント小旅行・遠足等】

英米文化特別演習では英語授業の履修による教室内での学習に加え、教室の外で行われる様々なアクティビティを通じて自分の目的に応じたコミュニケーションをとりながら英語を学ぶ機会が設定されています。

アクティビティは、世界的な観光地であるナイアガラの滝の見学・ボートツアー、レイクサイドでのバーベキュー、ワイナリー訪問、セント・キャサリンズ市庁の訪問、ナイアガラ・オン・ザ・レイク訪問など多岐にわたります。週末には、カナダ最大都市であるトロントへのデイ・トリップが行われ、運良くトロント国際映画祭の開催時期と重なれば、世界中から映画関係者やファンが訪れる国際都市トロントの非日常的な一面も垣間見られるかもしれません。

この他にも大学の行事であるぶどう踏み祭り（Grape Stomp）やキャンパス内のコンサート、ボランティア活動などにも自主的に参加することができます。これらアクティビティに積極的に参加すれば、現地の学生や住民との出会いを通じてさらに現地の文化を学ぶことが期待できます。



①②ナイアガラの滝の見学 ③ワイナリー訪問 ④セント・キャサリンズ博物館訪問 ⑤大都市トロント ⑥ぶどう踏み祭り

久保田 梨花

KUBOTA Rika

1部英米文化学科2年



## 初めての挑戦

英米文化特別演習に参加し、3週間カナダへ行ってきました。私は、大学へ入学する以前から英語が好きで、大学生になったら絶対に海外でホームステイをしたいと思っていました。北海学園のこのプログラムにより貴重な経験ができました。

カナダに着いてからすぐにホストファミリーとの生活が始まりました。何もかも新しい生活であり、当たり前ではありますが全て英語での会話、コミュニケーションです。最初は、何をしたらよいのかわかりませんでした。しかし、少しずつ少しずつホストファミリーと会話が増えていき、

犬の散歩や、毎回の食事すべてが楽しくなりました。

学校は、1クラス20人ほどで、様々な国の人々と関わりました。全てが英語の授業であり、自分で理解し、英語で自分の考えを伝え、相手に理解してもらおう、ということの難しさを実感しました。完璧な英語で伝えることは難しいことですが、なんとかして表情、ジェスチャーを使うこともコミュニケーションをとるうえで大切なものでした。

また、授業以外にもナイアガラの滝、アイスホッケーの試合観戦、トロント観光など様々なところへ行きました。ナイアガラの滝の迫力には本当に驚きました。また、友達とレストランや、スーパーマーケットへ行ったりしました。全てが本当に新鮮でとても楽しかったです。

こうして、ホストファミリー、学校の先生、友達との生活が宝物になりました。帰る日が本当に嫌でした。このプログラムに参加したことで、決して日本ではできない体験ができ本当に参加してよかつた

と心から思います。初めての海外での生活という挑戦は、かけがえのない特別な経験になりました。このカナダで過ごし感じた気持ちを忘れずに、伝えるということの大変さ、そして大切さを忘れずにさらに勉強にはげみ、これからの人生に生かしていきたいと思っています。



クラスメートたちと



知本 かれん

CHIMOTO Kaeren

1部英米文化学科2年



## 留学して初めて学べること

今回のカナダへの留学は私にとって初めての留学であり、初めての海外でした。それゆえ分からないことだらけの緊張の出発でした。しかしホームステイ先の家族もルームメイトもとても温かく緊張はすぐにほどけ、充実した日々を過ごすことができました。

カナダでは、驚きや日本との違いを感じる事が多々ありました。バスでは、降りる時にボタンを押すのではなく、紐を引っ張るというのにも驚きましたが、何よりも運転手と *Hi! Good morning!* など軽くですが挨拶を交わすことに驚きました。そしてバスを降りる時にも *Thank you.* と一

声かけてみんな降りていくのです。最初は挨拶をすることに抵抗を感じていましたが、意を決し、こちらから声をかけると笑顔で返してくれる現地の人々は本当に温かい方ばかりだと改めて感じさせられました。

学校の授業ではもちろん様々な国出身の人が集まっています。私のクラスでは中国、韓国、トルコ、サウジアラビア出身の人々で構成されていました。国は違うけれども、英語という一つの言語でコミュニケーションをとることができるのがとても楽しかったです。最初は話しかける勇気がなかったのですが、向こうの大学の先生は授業の中にペアやグループで話し合う時間をたくさん与えてくれました。それによって話す機会も増え、たわいもない会話も話せるようになってきました。やはり伝わると楽しい、もっと相手に伝えたい、と思うようになり、さらに英語力をあげたいと思うようになりました。

今回の留学では、たくさんのことを学ぶことができ、学生生活を超えて人生で良い経験ができたと思っています。この機会を与えてくださった先生方にも、温かく迎え入れてくれたホームステイ先の家族にも、一緒に学んだクラスメイトにも感謝の気持ちでいっぱい3週間を過ごすことができました。



ぶどう踏み祭りで



加藤 慎悟

KATO Shingo

1部英米文化学科3年



## カナダ3週間の留学で感じたこと

今回のカナダでの3週間プログラムでは、英語の学習や英語中心の生活など、日本では体験できないようなものがたくさんありました。

私の向かったブロック大学での英語の授業は、北海学園の英語の授業とはあまり変わりはなく、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング、文法の学習を、プレースメントテストによってレベル別に分けられたクラスで行うというものでしたが、他の国の留学生と授業をともにするのは、とても新鮮でした。どんなことを話すにも英語でなければ通じないという苦労はありましたが、意思疎通ができ、笑いあうことができたときはとてもうれしいものでした。

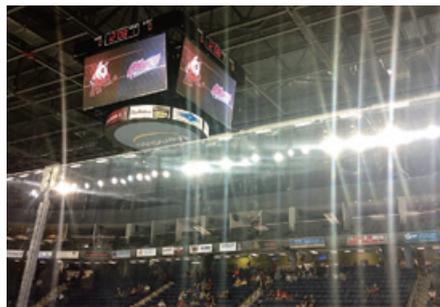
大学では勉強以外でも、様々なツアーを組んでいました。ナイアガラの滝、歴史的建造物などの見学、トロントへの観光旅行などで、カナダでなければ見られないものを見て、カナダでなければ手に入らないものを手にいれることができました。そのとき道に迷うことがたびたびありましたが、街行く人はとても親切で、未熟ながらも英語で道をたずね、長い間足を止めてしまっても、笑顔で答えてくれました。

カナダでの経験は、私の将来に役立つものばかりでした。身につけた英語力や、大学での英語の指導方法、学習方法などを、今後の生活や、私の志望する英語教員になるためにも、役立てていきたいと思えます。また、カナダで会った人たちのような親切さを、私も持つべきであると思えました。

この研修に参加しようと考えている学生のみなさん、この研修は、英語を学ぶだけでなく、いろいろなところを見て回って、いろいろな人と触れ合うことのできる貴重な機会です。ぜひとも参加してみてください。そして、「カナダに来てよかった」と思える経験を積んでください。その経験はきっと、みなさんの将来に大きく役立つはずですよ。



ぶどう踏み祭り



トロント市内のアイスホッケースタジアム



加藤 梨菜

KATA Rina

2部英米文化学科3年



## Challengeって大事

「大学生活ももう3年目だし、卒業する前に何かしたい。」そんな時に今回の国際文化演習の存在を知り、海外への強い憧れを持っていた私はすぐに参加を決めました。

始めのうちは、文法か何かが間違っていたらどうしよう、そのせいで伝わらなかったらどうしようと考え込んでしまい、自分から話し出すことができませんでした。長旅を労ってくれたホストファミリーにも *Thank you* などの簡単な言葉しか返せない自分が情けなかったです。しかし、同じステイ先の中国人留学生の子が「わからない単語だとかがあれば一緒に考えましょう。スマホだってあるじゃない」と笑ってくれてからは、変に考え込まないようになり、授業でも家の中でも積極的に発言することができました。文法がおかしくても、発音や語彙が曖昧でも、まずは伝えることの大切さに気付いたからです。そしてカナダで過ごす最終日、あらかじめ日本から持ち込んでいた書道セットがあったので、ホストファミリーに「感謝」の二文字を筆でしたためることにしました。出来上がった作品を見て、漢字の意味を知ったホストファミリーは、「またカナダに戻ってきてね」と何度もハグをしてくれて、日本に帰ってきてから暫くホームシックに悩まされました。

演習の課題として“カナダの多文化主義”について調査しましたが、文献を読むだけでなく実際の移民の声を聞き、調査を進めていくうちに、以前よりも歴史や文化への興味が強まり、多種多様な生活を営む人々の、本当の声を聞きたいと考えるようになりました。

もし、今後国際文化演習への参加を考えている人がいるのなら「行きたいと思ったなら、迷わないで！」そう伝えたいです。行けばよかった、なんて後悔するのは簡単だけど、挑戦してみるっていう難しいことを選択してみるのも面白いですよ。



写真左上：ぶどう踏み祭りで、右上：市内観光で、  
下：ホストファミリーと



## 今井 友梨菜

IMAI Yurina

1部英米文化学科2年



## カナダでの経験

私は今回初めて留学という貴重な経験をしました。約4か月カナダで生活をし、今まで体験したことのない素晴らしい時間を過ごすことができました。ブロック大学での授業は自分のレベルによってクラスが分けられるので授業についていけないといった不安はなく、毎日充実した学校生活を送りました。さらに放課後や週末には、さまざまなアクティビティがあります。このアクティビティに参加することで友達との思い出をたくさん作りました。

私のホストファミリーはとても優しく私を迎え入れてくれました。夕食のとき、必ず私に話を振ってくれ英語を話す機会を与えてくれました。しかし私の話すスピードはとてもゆっくりで、質問を一度で理解することができないことが多々ありました。それでもファミリーは私が話し終わるまで真剣に聞いてくれ、質問がわからなかったときも簡単な単語で言い換えてくれました。夕食のあとはマザーと映画を見たり、会話を楽しみました。この経験で養われたものを、将来の仕事で使いたいです。

今までは自分の英語力に自信がなく行動できませんでした。今は少し自分に自信ができました。英語がペラペラしゃべれるわけではありませんが、がんばって伝えようという意思を持つようになりました。これからこのプログラムに参加する学生さんたちに伝えたいことは、自分の英語力に弱気にならずに積極的に行動してほしいということです。私は英語が得意ではありません。ただ、英語が好きだけです。最初は、私もこの英語力で4か月やっていけるのか不安でしたが、なにも行動せずにだらだらと英語に向き合うのが嫌だったので留学を決意しました。結果、行って本当によかったです。ですから、自分の英語力だけで留学を諦めないでほしいということを伝えたいです。



ナイアガラの滝で



矢尾 ちひろ

YAO Chihiro

1部英米文化学科2年



## 貴重な経験、次に繋げたい

私は2015年の9月から12月、カナダのセント・キャサリンズにあるブロック大学で国際文化特別演習に参加しました。カナダでの3か月半は、英語はもちろん文化や習慣など様々なことを学ぶことができ大変有意義なものになりました。

東京から飛行機で約13時間、その後バスで約2時間、合計約15時間かけて着いたセントキャサリンズは文化も言葉も日本とは大きく異なっていました（でないと語学研修にならないですね）。そのギャップに驚かされる毎日でしたが、その中でも私が特に驚いたのは現地の人たちのフレンドリーさです。初対面の人にも話しかけることが普通であるその文化のおかげで、様々な人と自然と英語でコミュニケーションをとることができました。もちろん感じたギャップは、いいことばかりではありません。時には日本との違いに驚き、その不便さも感じましたが、現地の人たちはそれを当たり前だと考えるまく生活しています。日本での生活とは異なる部分を文句として片づけるのではなく、受け入れ理解することが大切だと感じました。

授業は日本の大学よりも早い朝8時からありました。リスニング、スピーキングなど5部門に分けられ、それぞれの授業で50分ずつ専門的に学習していました。毎日朝早くから授業に集中し、放課後課題に取り組むことは大変でしたが、週末には大学から近いトロントやナイアガラの滝など様々な所へ友だちと勉強の息抜きに出かけられたので、ブロックでの学習が苦にはなることはありませんでした。

私は今回語学研修に参加したことで英語を日常的に使える点に魅力を感じ、またカナダで学びたいと考えようになりました。ブロックでの経験を活かし、来年度は、よりレベルの高い大学での語学研修に参加できるよう、先生方のサポートを受けながら引き続き勉強を頑張ります。



田中 悠太

TANAKA Yuta

2部英米文化学科2年



## In Canada

ブロック大学では英語を学ぶだけでなく、日本では感じる事のない異文化について非常に深く考え、そして経験する事が出来ました。異文化について一番深く考えるきっかけとなったのはホームステイでの生活でした。食生活、言語そしてマナーが日本とは大きく異なり自分が本当に正しいのか不安になることが少々ありましたが、否定しないことで上手く海外の文化と付き合っていくことが出来ました。大学の授業、アクティビティそしてクラスメイトとの時間を通して文法的には簡単だけれど日本人がなかなか理解していない英語などが沢山あることに気付く事ができ、またそれを

学ぶ事が出来ました。更に英語ネイティブの人達と頻繁に関わる事によって、自分の英語の発音には日本人特有のアクセントがあるという事も気付く事が出来ました。

私はこの経験を自分の将来の夢である英語教員という道へと生かす事が出来るよう、今後とも励んでいきたいと思っています。カナダ留学を通して得た様々な経験、英語だけでなくカナダの文化などを将来の自分の生徒に伝えていけたらいいなと思っています。英語は勉強ではなく世界中の人々とコミュニケーションをとる事ができる素晴らしい言語だという事を将来の自分の生徒に伝えることが出来るといいなと思っています。それに加えて自分のまだまだ乏しい英語力を向上させ、より多くの外国人と関わってみたいです。

もしブロック大学への留学を考えている学生に自分から言える事があるならば、カナダは素晴らしい国です。移民の国であり色々な人々がいて、日本と大きく違う国だと思います。ブロック大学はそんな人々と関わる環境を与えてくれる素晴らしい大学です。是非留学を前向きに考えてみてください。英語のみならず様々な事を僕は学ぶ事が出来ました。



# Why Brock?

## Interview with Norma MacSween, Director of ESL Services

**N**orma MacSween, the Director of ESL Services, loves meeting students from around the world who have come to Brock University. She explains that there are three 14-week intensive programs per year, with between 300 and 500 students from over 15 different countries attending each term. In addition, there are special programs for groups, of which the Hokkai-Gakuen Faculty of Humanities' three-week program is one example.

**S**tudents are first given a placement test that places them in one of six levels, from Preparatory, or beginner level, to Level 5, or advanced. Students who successfully complete Level 5 are eligible to enter Brock University as a regular undergraduate student. Students take five classes a day—Reading, Writing, Listening, Speaking, and Grammar—with five different teachers. Dr. MacSween supervises over 40 full-time and part-time instructors, as well as five academic coordinators who oversee assessment, quality of teaching, and activities. In addition, student volunteers serve as cultural assistants when they take the students on activities.

**T**he program offers many activities outside classes such as day trips to locations such as Niagara Falls, the historic site of Fort George, and Toronto. There are also fun local activities such as bowling or seeing a local hockey game. Norma MacSween says these provide great opportunities for students to communicate with each other in English and also to learn more about Canadian culture.



**Norma MacSween**  
Director,  
ESL Services



ブロック大学 ESL Services 担当者グループ

**D**r. MacSween notes that the most important way for students to experience Canadian culture is through their host family. Each student is carefully matched up with a homestay family to make sure there is a good fit. Many of the families who have hosted students from Hokkai-Gakuen have requested to host a student from Hokkai-Gakuen again. Norma MacSween hopes that students will keep an open mind, talk to as many people as possible, and enjoy as many activities as they can!



ブロック大学のキャンパス



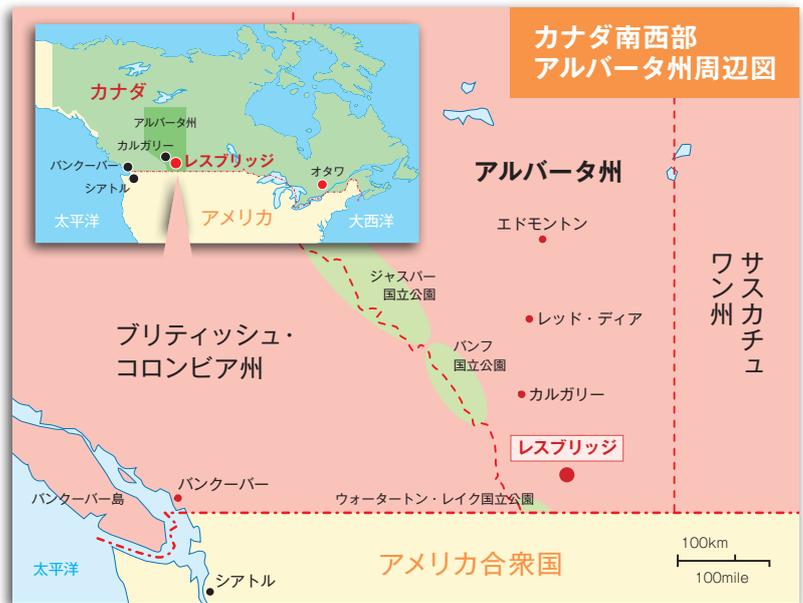
英米文化特別演習の修了式

# レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介

## Lethbridge市

カナダの西部のアルバータ州に位置するレスブリッジ市 (City of Lethbridge) は、州内でカルガリー、エドモントン、レッド・ディアに次ぐ4番目の人口 (現在 93,004 人) を有する都市です。カナディアンロッキーの近くに位置するため、夏は涼しく (平均 26℃)、冬もさほど厳しくなく (平均 -2℃)、2時間南下すると、ロッキー山脈沿いのウォータートン・レイク国立公園に入り、1時間ほどでアメリカに行くことができます。

レスブリッジ市は南アルバータの商業、金融、交通、そして工業の中心で、19世紀後半からは炭鉱を中心に、20世紀初頭からは農業を中心に発展してきました。労働人口の半数は衛生、教育、小売、宿泊飲食産業などに携わっています。第二次世界大戦中、ブリティッシュ・コロンビア州から強制収容された日系人がレスブリッジ郊外の農村地帯に住んでいたという歴史を持ち、日系人の比率が比較的高いと言えます。2011年の国勢調査によれば日本人人口は 1,575 人 (そのうち日本語を母語として話す人口は 320 人)。現在、青森県十和田市と沖縄県南風原町と友好姉妹都市を結んでいます。また日加友好日本庭園 (Nikka Yuko Japanese Garden) が市の南部にあります。



レスブリッジ大学

## レスブリッジ大学とは

レスブリッジ大学は、1967年州立大学として創立された南アルバータにおける唯一の総合大学です。南アルバータの3つのカレッジのうち2つが市内にキャンパスを構え、人文・社会学部、芸術学部、健康学部、理学部、経営学部、看護学部、演劇学部、音楽学部の八つの学部と大学院で学士・修士・博士課程の教育が行なわれ、150以上の学部課程のプログラムと大学院課程のプログラムを有します。在学生は 8,400 人 (500 人は世界 87 国からの留学生) で、2014年マクリー (カナダの時事雑誌) の大学の評価と、2013年 RESEARCH Infosource (研究大学を評価するサイト) において、いずれもカナダ国内の大学3位にランクされています。教育は少人数クラスと小コミュニティのなかで行なわれるのが特徴で、英語を母語としない学生のためのプログラムも毎年、春、夏、秋学期に提供しています。

## レスブリッジ大学海外研修事業の概要と EAP 授業

レスブリッジ大学と本学は 1986 年から提携を結んで学生交換事業を行ない、現在まで隔年ごとに多数の学生を相互に派遣してきました。世界的なグローバル化が進展するなか、この学生交換事業は「語学研修」と「交流体験」を通して英語の養成と国際性の涵養が目的とされ、多くの実績と豊かな経験を蓄積してきました。

2014 年度から人文学部は、上記の事業にさらに「海外研修事業」を加え、学生が「英米文化特別演習」として、9 月上旬から約 3 週間、また「国際文化特別演習」として約 3 ヶ月間、レスブリッジ大学が提供する EAP (English for Academic Purposes) のプログラムに参加できるように決定しました。EAP とは、英語を母語としない学生のためのプログラムで、大学で学ぶために必要な英語を習得する集中講座で、ライティング、リーディング、コミュニケーション、文法を専門講師から学び、初級から上級までのクラスレベルがあります。

研修期間中、学生たちは、フランス系カナダ人や、南米諸国、中東、アジア各国からの留学生を中心とする多様な文

化背景を持つ人々と授業を受けることになります。また、ホームステイや世界各国からの留学との交流を通して、あるいは日加文化活動の参加と国立公園への探訪などの体験を通してカナダ文化に触れ、多文化主義をも体験することができます。

**【授業内容例】**

- 受講生はプレイスメントテストにより初級から上級までの3つのレベルに分けられ、それぞれのレベルでライティング、リーディング、コミュニケーション、文法の4コースを受講します。
- 2014年度からレスブリッジ大学での研修を本学の「英米文化特別演習」（2単位）または「国際文化特別演習」（受講科目に応じて12～20単位）として履修可能となり、研修終了後にレスブリッジ大学から送られてくる成績評価に基づき、学部教授会で単位認定されます。



様々な国からの留学生たちと



①②③レスブリッジ大学の教室で ④修了式で

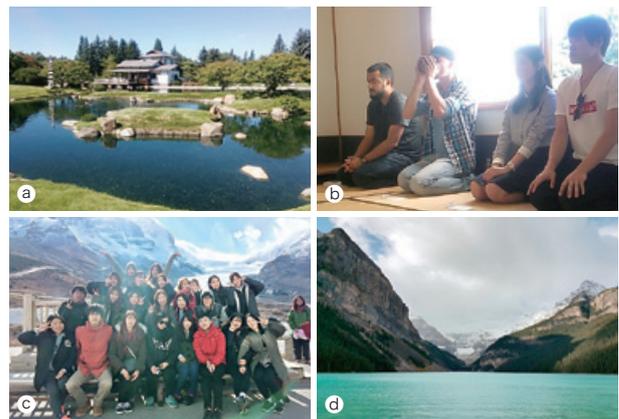
## レスブリッジ大学のアクティビティ【日本庭園やウォータートン国立公園等】

生きた英語力を身につけ、より流暢に英語を話し、多様な価値観と国際性を涵養するためには、教室だけでは不十分です。さまざまなアクティビティを通して、豊富な体験をすることも必要です。

例えば、ある参加学生は、日本語を学ぶ同世代のパートナーと休日に日本庭園や英語環境のなかの日本文化イベントのお茶会に参加したり、和食レストランに行くなどのアクティビティを通して、とても感動したという体験談を報告しています。あるいは、金曜日は授業が早く終わるので、放課後にバーに行き、お酒を飲みながら話し、カナダ人のほぼ全員が踊れると言われているラインダンスを教えてもらったり、普段の授業の日もパートナーとお昼を一緒に食べたりすることで、よい友人関係を築き、帰国するときには離れたくなくてとても寂しかったという話もありました。戦前から日本と特別な関係があるレスブリッジ市ならではの体験ができるそうです。

また、Waterton National Park（ウォータートン国立公園）を散策した学生は、同じプログラムに参加した韓国からの留学生と一緒に行動し、英語を通してカナダでの異文化を体験しています。ハイキングで川の近くまで迫ったとき、壮大な湖と雄大な自然に感動して撮った風景は、どれもこれも絵になるような写真ばかりだったそうです。

参加者全員は、市民ホールで開かれたレスブリッジ市主催の国際留学生のための「グローバル・ナイト・パーティ」に参加しました。ゲーム、会話、ダンスなどで（食事込みで\$2のみ）、大いに楽しんだとのこと。



㊸日本庭園 ㊹日本文化イベントのお茶会 ㊺㊻ウォータートン旅行

岸本 茉凜

KISHIMOTO Marin

1部英米文化学科2年



## 忘れられない4か月

カナダでの4か月間の留学生活は私の英語に対する捉え方や今後への目標を大きく変えるものとなりました。さまざまな人と出会い、文化に触れ、時には授業や宿題に追われたりと、毎日目まぐるしく、充実した毎日を送りました。授業はクラスのレベルや担当の教授にもよりますが、私がいたクラスは英語を学ぶというのはもちろんなのですが、英語を使って何か新しいこと、たとえば科学について学んだり、記事や物語を読んで、作者の伝えたいことを読み取ったり、そこから教訓を学んだりするという授業スタイルがありました。授業を受けて強く感じたのは、英語力があって英語が喋れるというだけでは難しいと思いました。客観的に問題を見る力や論理的に考えて発言し相手を納得させる力などが必要だと感じました。一つの授業はだいたい2時間半で一日2教科しかないので、学校自体はすぐ終わるのですが毎日宿題が出されるので、放課後は宿題をし、時間を見つけて友人と遊びに出かけたりなどしました。友人たちと時間を共にするのはとても毎日楽しく、異国の文化や情勢を知るととてもいい機会になりました。ホームステイ先ではホストファザー、ホストマザー、そして韓国からの留学生と私の4人で暮らしていました。ホストファミリーの2人はもう20人近くも学生を下宿させているということで慣れていましたし、とても親切でした。夕食時には4人がそれぞれ、その日にあったことや、気になったニュースについて話したり、ホストファミリーの生い立ちを聞いたりとても有意義な時間を過ごしました。ホストファミリーと日常を共にし、一緒に出掛けたりすることはカナダ生活の大きな思い出の一つになりました。

カナダへ行きそこで生活する前は、英語というのはどうしても私の中のどこかで「勉強」という意識が私の中から離れなかったのですが、この4か月の留学のおかげで、英語はコミュニケーションの一つなのだということが心の底から実感できました。今後は4か月で身に付けた英語力の維持だけでなく、将来仕事でも英語を使いたいと思っていますので日々向上に努めていきたいと思います。もし留学を考えているのであれば、この4か月プログラムは自分の英語に対する意識や、さまざまな知識や経験を得るには十分な期間ですのでぜひ参加してみてください。



ホストファミリーと



## 西崎 壮太

NISHIZAKI Sota

1部英米文化学科2年



## レスブリッジ滞在を通して

私は国際文化特別演習に参加し、約4か月間カナダ、アルバータ州のレスブリッジという町にEAPを受講する学生として滞在しました。私にとっては初めての海外だったので、来た当初は見るものすべてが新鮮に感じられ、中でも午後9時を過ぎても日が完全に沈み切らなかったことにカナダが日本とは違う異国なのだ実感させられました。

私の滞在していたホームステイ先はホストマザーと彼女の息子、さらに別のカナダ人と韓国人の子が共にホームステイしていて、私と合わせて合計5人で暮らすとても賑やかな家でした。彼らとの会話も大学で学ぶのと同じくらい英語の勉強になりました。ホームステイで日本とカナダの文化の違いに多少戸惑うこともありましたが、それも同様に貴重な経験になったと感じています。

大学においては英語能力の総合的な向上を目的としたEAPの一学生として、様々な国からの留学生と共に学びました。EAPの授業では日本と同様に教師が前に立って授業をします。しかし日本のそれとの決定的な違いはディスカッションに重きを置いていることと学生たち自身の発言の数の多さです。学生たちは皆競うように挙手をして発言し、自分の思うところを自由に発言する、時には教師よりも学生たちの発言のほうが多いと感じられる授業も少なくありませんでした。このような学生の自主性があふれた環境で勉強した経験は英語で積極的に話すことに慣れることにもつながりましたし、何より自分自身の英語に対する自信につながりました。

今後はEAPで培ったことを無駄にせずより一層、英語力の向上に努めるつもりです。最後にこれからこの語学研修に参加する人に一言、海外にいるからといって英語を話す機会を作る努力を怠っては日本にいるのとあまり変わりません。大切なのは積極性です。応援しています。



写真上：大学キャンパス、下：ホームステイ先の自室



長谷川 啓祐

HASEGAWA Keisuke

1部英米文化学科2年



## レスブリッジでの英語学習

今回、北海学園大学に入学してから一つの夢であった国際文化特別演習に参加させてもらいました。カナダのアルバータ州にあるレスブリッジ大学で英語を勉強する機会をいただき、約4か月間レスブリッジで留学体験をしてきました。カナダでは様々な異文化体験をすることが出来、日本との違いに驚かされることも多くありました。レスブリッジは小さな町で自然が多く、また地域の人々もとても温かく過ごしやすいかったです。レスブリッジ大学でのEAP（English for Academic Purpose）の授業は少人数制で1クラスが中国・韓国・ブラジル・ベネズエラなど世界中から来た留

学生約15人で構成され、Writing、Reading、Grammar、Communicationの4つのクラスがありました。授業を通して英語を学ぶのはもちろん、他の留学生からその国の文化や習慣など様々なことを学ぶことが出来、毎回の授業はとても濃いものでした。日本とは少し異なり教師と学生の距離が近く、自分たち学生もリラックスしながら授業を楽しむことが出来ました。EAPが終わる学期末には、教室で映画を見たりクラスのみなどとゲームをしたりと最後まで楽しい4か月間でした。

この国際文化特別演習での4か月間を終えて、言語習得の難しさや英語の重要性を改めて感じました。英語を話せるようになるためには、とにかく話す機会を増やし練習することが大事であり、そのためにも留学を通して大切なことは、自分から話しかけたり、質問したりする勇気やミスを恐れないことだと思いました。4か月間勉強し、ネイティブスピーカーと話していく中で多少の英語の伸びは感じるものが出来ましたが、自分の満足するものには到底及びませんでした。しかし、この経験を通して得たものは計り知れず、本当に貴重な体験が出来ました。この経験や体験を今後の英語学習や生活に活かし、また発信していきたいと思います。



ウォータートン国立公園の小旅行で



# Why Lethbridge?

## Interview with Karen Smith, Manager of Language Services

“If you want to learn about a culture, learn the language.”

Karen Smith is a newcomer to the International Center for Students (ICS), but she has been working in this area for a long time. She brings a unique skill set and lot of confidence and enthusiasm to her job as manager of Language Services at ICS.

Karen loves languages and linguistics. “Linguistics is my heart, language learning is my soul,” she says. A natural linguist, she picked up Chinese during her four years there doing volunteer work and doing an internship in Hong Kong. She trained in English as a Second Language and has been a language teacher. Even now, she continues to read a number of professional journals in linguistics. In fact, she is excited about recent developments in this field that she “adores”.

Karen clearly has a deep respect for other cultures. While in China, she became deeply immersed in Chinese culture. She enjoyed meeting friends’ families in remote villages just as much as she enjoyed the excitement of Hong Kong. This same respect can be seen when she reminisces about some former students from Mexico who were committed to preserving their indigenous Mayan heritage.

As business manager, Karen Smith loves putting together new language programs. Here at Lethbridge, she looks forward to setting up custom programs that link culture to language. She envisions language courses that focus on Alberta’s unique geology and indigenous culture. In this way, during excursions to places such as Head Smashed-in Buffalo Jump, students will be able to hear and read the same vocabulary that they learned during class.



**Karen Smith**  
Manager, Language Services



ウォータートン旅行

Karen explains that all of the ICS staff members have a deep commitment to students, and that all ICS teachers and administrators share these same values. “I’m proud to be here at the University of Lethbridge.”



授業

# 研修までの流れ

※年度により、スケジュールが変更することもあります。



# 海外研修事業の歴史

## ■人文学部 英米文化特別演習／国際文化演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	引率教員	参加学生数	委員
第1回	ブロック大学	平成12(2000)年度 7月7日～8月13日	宝利尚一	18名 (男子7名、女子11名)	米坂スザンヌ
			米坂スザンヌ		岩崎まさみ
第2回	ブロック大学	平成13(2001)年度 7月8日～8月12日	井上真蔵	22名 (男子5名、女子17名)	米坂スザンヌ
			岩崎まさみ		岩崎まさみ
第3回	ブロック大学	平成14(2002)年度 7月7日～8月11日	桑原俊一	20名 (男子3名、女子17名)	米坂スザンヌ
			上野誠治		岩崎まさみ
—	平成15(2003)年度 SARSの流行により中止				米坂スザンヌ
第4回	ブロック大学	平成16(2004)年度 9月4日～9月26日	米坂スザンヌ	25名 (男子2名、女子23名)	米坂スザンヌ
			岩崎まさみ		岩崎まさみ
第5回	ブロック大学	平成17(2005)年度 9月4日～9月25日	栗原豪彦	24名 (男子4名、女子20名)	米坂スザンヌ
			米坂スザンヌ		岩崎まさみ
第6回	ブロック大学	平成18(2006)年度 9月3日～9月24日	中川かず子	20名 (男子6名、女子14名)	中川かず子
			イアン・マンビ		米坂スザンヌ
第7回	ブロック大学	平成19(2007)年度 9月2日～9月23日	上野誠治	22名 (男子4名、女子18名)	岩崎まさみ
			池内静司		中川かず子
第8回	ブロック大学	平成20(2008)年度 9月1日～9月21日	桑原俊一	23名 (男子0名、女子23名)	岩崎まさみ
			本城誠二		上野誠治
—	平成21(2009)年度 世界流行のインフルエンザにより中止				岩崎まさみ
第9回	ブロック大学	平成22(2010)年度 9月5日～9月26日	岩崎まさみ	27名 (男子5名、女子22名)	米坂スザンヌ
			ウィリアム・ケイ		岩崎まさみ
第10回	ブロック大学	平成23(2011)年度 9月4日～9月25日	田中洋也	26名 (男子5名、女子21名)	中川かず子
			ウィルマ・ルース		寺田吉孝
第11回	ブロック大学	平成24(2012)年度 9月3日～9月23日	岩崎まさみ	24名 (男子8名、女子16名)	米坂スザンヌ
			ジェレミ・ブシャー		田中綾
第12回	ブロック大学	平成25(2013)年度 9月1日～9月22日	上杉忍	13名 (男子3名、女子10名)	米坂スザンヌ
			ブリックリン・ゼフ		テレント アイトル
第13回	ブロック大学	平成26(2014)年度 8月31日～9月21日	柴田崇	14名 (男子2名、女子12名)	米坂スザンヌ
	レスブリッジ大学		米坂スザンヌ	12名 (男子3名、女子9名)	田中洋也
第14回	ブロック大学	平成27(2015)年度 9月6日～9月27日	ジェレミ・ブシャー	14名 (男子2名、女子12名)	テレント アイトル
	レスブリッジ大学				最少催行応募人数の10名に至らなかったため中止
					ジェレミ・ブシャー

## ■人文学部 国際文化特別演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	参加学生数	委員
第1回	ブロック大学	平成27(2015)年度 9月8日～12月18日	3名 (男子1名、女子2名)	米坂スザンヌ
	レスブリッジ大学	平成27(2015)年度 9月9日～12月17日	3名 (男子2名、女子1名)	上野誠治
				ジェレミ・ブシャー

# Brock & Lethbridge Gallery







平成28年3月発行

北海学園大学 人文学部

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号  
TEL: 011-841-1161 (内線2132)  
FAX: 011-824-7729  
北海学園大学 URL: <http://hgu.jp/>  
北海学園大学人文学部 URL: <http://human.hgu.jp/>

edit : Labbott